

〔平成 15 年度普及に移す技術〕

〔普及に移す技術名〕有機液肥を用いたミディトマトの灌水同時施肥法

〔要約〕植物由来 100%の有機液肥である CSL を用いることにより、ミディトマト「越のルビー」の灌水同時施肥法が可能であり、糖度も向上する。また、慣行栽培より 5 割程度窒素施用量を削減しても同等の収量が得られる。

〔キーワード〕ミディトマト、有機液肥、CSL、灌水同時施肥

〔担当〕福井園試・野菜研究グループ

〔連絡先〕電話 0770-32-0009 電子メール [engei1@kl.mmnet-ai.ne.jp](mailto:engei1@kl.mmnet-ai.ne.jp)

〔分類〕参考

-----  
〔背景・ねらい〕

本県特産のミディトマト「越のルビー」は、肥培管理に高度の技術を要することから、草勢調節が比較的しやすい灌水同時施肥法が導入されつつある。そこで、特別栽培認証制度に適應する有機液肥を用いた灌水同時施肥技術を開発する。

〔技術の内容・特徴〕

- 1．植物由来 100%の有機液肥である CSL（コーンステープリカー）を灌水と同時に施用することにより、基肥無しでも慣行栽培と同等の収量が得られる（表 1,2）。
- 2．1 週間に 1 回、CSL を灌水同時施肥し、あとは灌水のみ行うことで点滴チューブつまりが防げ、濃度障害もない。
- 3．糖度は慣行栽培よりも高くなり秀品率が向上する（図 1）。
- 4．CSL を用いた灌水同時施肥法では、慣行栽培より窒素成分量で 5 割程度削減できる（表 1,2、図 2）。
- 5．従来よりも少ない窒素施用量で収量が得られるため、葉柄汁液中硝酸イオン濃度の目標値は慣行栽培よりも低くする（図 3）。

〔技術の活用面・留意点〕

- 1．灌水量は曇雨天には 0～1/2 とし、天気に合わせて加減する。また、1 回当たりの灌水量も土質に合わせて加減する。
- 2．石灰資材等はあらかじめ施用しておく。
- 3．CSL は希釈すると腐敗しやすいため、使用直前に希釈する。

〔 具体的データ 〕

表 1 灌水量と C S L 施用量 ( 2002 年 7 月 23 日 ~ 12 月 5 日 )

	灌水量 (ml/枝・日)	窒素施用量(g/枝)			期間日数
		0.5倍区	1.0倍区	1.5倍区	
定植~1段開花	191	0	0	0	8
1段~2段開花	575	0.17	0.35	0.52	7
2段~3段開花	575				
3段~4段開花	767	0.32	0.65	0.97	14
4段~5段開花	958				
5段~収穫開始	1150	0.52	1.04	1.56	21
収穫開始~	958				
3段収穫開始~	575	0.69	1.38	2.07	31
5段収穫開始~	383				
6段収穫開始~	191	1.38	2.75	4.13	55
計		3.08	6.16	9.25	

表 2 C S L 施用量の違いが果実収量に及ぼす影響

	収量 (kg/a)	規格収量 (kg/a)	1果重 (g)	糖度 (%)	果数 (個/枝)
1.5倍区	290	271	35.5	7.1	41
1.0倍区	318	275	42.1	6.9	38
0.5倍区	344	310	38.8	7.5	44
慣行区	361	336	39.1	6.7	46

秀：糖度 7.5 以上、優：糖度 6.5 以上  
 ) 慣行区は菜種粕 + レオユーク 8 + トミー液肥 ( 追肥 ) で  
 13.4kgN/10a

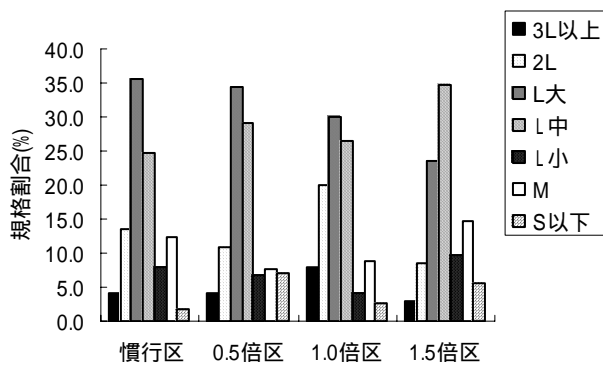
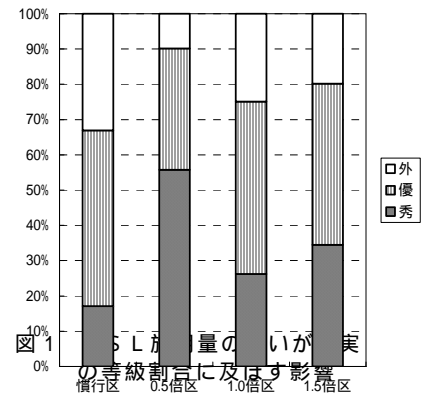


図 2 C S L 施用量の違いが果実の規格割合に及ぼす影響

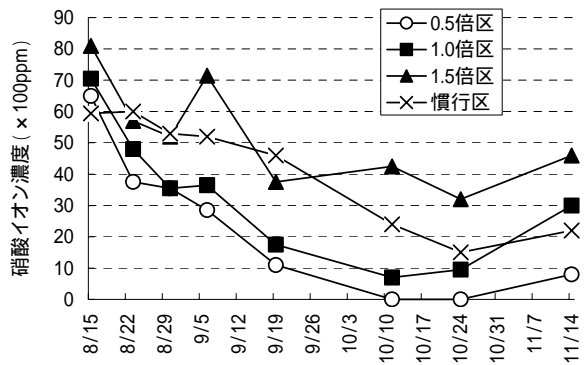


図 3 C S L 施用量の違いが葉柄汁液中硝酸イオン濃度に及ぼす影響 (2段花房下葉)